

平成25年度第3回「市長とランチでトーク」

- 開催日 平成25年10月31日（木） 12:00～13:00
- 内容 市役所3階第2応接室にて市長と懇談
- 出席者 〈参加者〉 みやのもり自治会役員 8名
〈市側〉 市長

● 主な内容（抜粋）

市長： 自治会として全員が参加で足並みが揃うまでには時間はかかったでしょうね。

参加者： よく、「みやのもり自治会には反対する人はいないのですか」と聞かれますが、やはり反対はつきものであり、役員の方々がそれぞれ苦勞しながらリードしてやっていただいたのがこの10年間でした。民主的に同意することから始まり、易いことから始めてステップアップしてきました。できることからやってきました。

市長： 若いお母さんたちも立派ですね。自治会では高齢者の方が先頭になってやるところが多く、「若い人たちの意見をもっと聞いてほしい」という悩みをいただく時があります。

市長： 育成会は夏祭りとかを担当されているのですか？

参加者： はい。子ども向けの縁日をやるので、それを育成会で担当しています。

市長： そのようなイベントの時、場所はどこでやるのですか？

参加者： 公園です。

市長： 最初にみやのもり自治会の取組をうかがったのは8年前だったでしょうか。

参加者： 取組を説明したのは7年前だと思います。

参加者： その時市長からいただいた、「こういう自治会がないかと探していた。」という言葉に身に染みて覚えています。

市長： みやのもり自治会では高齢者の方々もいきいきとして介護率も低いでしょうね。今、市では公共交通の整備を進め、高齢者方々が外出できる環境を作ろうとしています。病院とスーパーだけでは限られた外出になってしまうので、各自治会や地域で高齢者が外出するような仕掛けをつくっていただけるとありがたいと思っています。高齢者の方に役割と出番を与えることが必要だと思っています。子どもたちと交わるのもいいと思います。我々の時代は両親が働いている子どもや農家の子どもも多く、近所のお年寄りが面倒を見てくれていました。高齢者と子ども

もがふれあい、子育てにかかわってくれるといいですね。

参加者： 登下校などで見守っていただいているので、親の立場としては安心して子どもを学校に行かせることが出来ます。地域の方の目があるということはとても安心です。

市長： 自治会の皆さんでお互いに教育をしていると思います。「大人として、模範を子どもに見せよう」などと自然と皆さんで意識し合えば、人間力も高くなると思います。

参加者： 最近の入居者の方は、みやのもり自治会の評判を聞いて入居した方が非常に多いです。パンフレットにみやのもり自治会の取組を書き、それを売りにしているので、入居する方はみやのもり自治会の取組を理解したうえで入居してきます。

市長： まさしく「みやのもり」がブランドになっていて、「みやのもり」に移り住んでみたいということですね。これは、宇都宮が考えている「宇都宮に住んでよかった」「宇都宮に移り住みたい」を思ってもらえるまちづくりであり、そうになっていけばいいと思い努力していますが、難しいです。

参加者： みやのもりは20年後には若手が定年を迎えます。一斉に子どもがいないまちなりかねません。

市長： そうなってほしくないですね。私としてはみやのもり自治会がそれをどう乗り越えていくかを模範にしたいと思っています。

参加者： 私が今、若い人達に言っているのはオールドタウンの方々から学ぶものがたくさんあるということです。

市長： だいたいまだ若い自治会ですから、高齢化率はそれほど高くないでしょうね。

参加者： 敬老会は8名です。

参加者： いきなり80歳代や90歳代の人達を地域の活動に引っ張り出そうとしても出来ないと思います。今の時代のうちから私達は親しく交流しています。これは非常に重要なことだと思います。

参加者： 初代自治会長がいろいろ勉強されて、さまざまな組織の仕組として展開をする時、私も副会長としてやっていました。

今でもいつも現状把握をしながら必ず改善していています。

市長： メンテナンスをしながら、常に手を入れているということですね。

市長： みやのもり自治会のような自治会に仕上げていくための、誰が見てもまねできるハウツー本はないのでしょうか。

参加者： みんなでまちづくり課と頻繁に打合せをしており、その際、私がみやのもり自治会について講演した内容をデータで渡していますので、ほかから要望があった時にはそれを出せるようにしています。

参加者： 1番質問が多いのは、どうしたら役員を引き受けてもらえますかということです。まず、まちづくりの動きや計画を具体的に示し、それに人の個性をマッチングさせることです。そうすると必ず引き受けてくれます。まちづくりの動きを見せるためにはビジョンや計画を作ることです。今、会社を辞める人は何をしたいかという、地域と関わりたいというのが圧倒的に多いです。

市長： そういうものがあれば分かりやすくなり、やろうという自治会はたくさんあります。でも、どうやればいいのかわからないのと一人では出来ないとなってしまう。

参加者： もう一つは、なぜ自分たちのまちは自分たちでつくらなければならないのかという基本がわかっていないということです。この10年ですっかり環境が変わってしまい、自分達でやらないと住民に真の幸せは訪れないということを住民に教えてないので、協働のまちづくりがどういう意味なのか住民に理解されていません。

市長： 宇都宮の自治会加入率が目標の70%に少しずつ近づいてきました。自治会の皆さんの努力とか苦労は本当に評価してもらいたいです。我々も頑張っていきたいと思しますので、ご指導いただき、お力をいただければと思います。



市長とランチでトーク参加者のみなさん